

令和4年度第2回庄原市「学びの変革」推進協議会 兼 庄原市研究主任研修会

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図ること」を目的に、研修会を行いました。

【講話・交流】「研究主任の役割について」 庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子



- PDCAサイクルを意識し、見通しをもって研究を推進することが、研究を深めるために大切である。
- 校内授業研修会では、実際の児童生徒の姿をもとに、指導が適切であったか、授業仮説が実態に合っていたかなど、十分に協議する必要がある。

【交流での意見等】

- ◆全教職員で、目指す児童の具体的な姿や協議の視点を共有し、見通しをもって研究に取り組むことが大切である。

【講話・協議】「研究協議の充実に向けて」 庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子

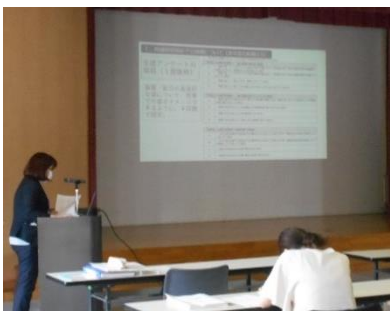
- 保健体育科の授業動画を視聴し、広島県教育委員会作成の「広島版『学びの変革』授業参観シート」を活用し、7つの視点に沿った授業記録の実際について協議を行った。
- 「広島版『学びの変革』授業参観シート」や授業改善の視点等を各校の授業参観や授業研究の際に活用し、児童生徒の「姿」を中心にした授業改善に取り組んでいくことが大切である。



【実践発表・交流】「探究的な学習の在り方について

～庄原市立西城中学校区の実践を通して～

庄原市立西城中学校 教諭 國保 美穂・庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子



- 「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定校である庄原市立西城中学校 研究主任 國保教諭が「総合的な学習の時間の取組について」と題して実践発表を行った。その後、中学校区ごとのグループで、各校において「総合的な学習の時間」の改善等に向け、取り入れられそうな点等について協議を行った。
- 自校の総合的な学習の時間の年間指導計画について、ポイントに沿って見直しを図った。

【交流での意見等】

- ◆児童生徒の思いや願いを大切に導入の工夫(校長先生からの手紙・依頼等)について参考になった。
- ◆单元ごとの学びをつなげて、大きな目標へのストーリーとなるような单元づくりの仕方が参考になった。
- ◆プレ探究の活動は、自校でも縦割り活動を行っているため、是非取り入れてみたいと思った。
- ◆自校でも地域の課題や困り事等、実生活・実社会の課題を解決し、地域へ還元する学習を仕組んでいきたいと感じた。

【講話】「デジタル機器の効果的な活用について」

庄原市教育委員会 指導主事 砂走 敏和



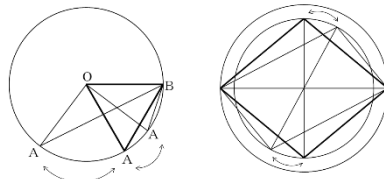
学校における ICT を活用した学習場面

- 令和元～3 年度に実施した「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」における庄原市内の状況について共有を図った。
- 文部科学省の HP から、算数・数学科の指導における ICT の活用について、問題解決の過程に沿った活用事例について、スプレッドシート、Forms、ジャムボード、テキストマイニング、ドキュメント等、動画で確認しながら事例の紹介を行った。



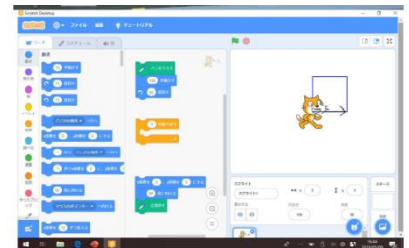
図 4-1 学校における ICT を活用した学習場面

図形についての感覚を豊かにする



二等辺三角形が連続的に変化する中で正三角形になることに気付く。

平行四辺形が連続的に変化する中でひし形になることに気付く。



「算数・数学科の指導における ICT の活用について」文部科学省 HP より

【講話】「カリキュラム・マネジメントの充実に向けて」

広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 寺本 佳子



- カリキュラム・マネジメントは、全ての教職員が参加し、地域等と連携することによって、学校の特色を創り上げる営みである。
- カリキュラム・マネジメントの PDCA サイクルの中で特に、C や A を見直す際の視点として、例えば、教育課程や授業の評価を「いつ行うか」について見直し、年間指導計画の中に入れることや、改善計画をいつ立てて、「誰が・いつ・どこで・どのように」実行するのか、分担を明らかにする事等が挙げられる。
- 児童生徒の資質・能力を系統的に育成するため、育成を目指す資質・能力について小中連携を進めることも大切である。

【参加者の感想等】

- ◆他校の研究主任と取組の交流をすることができ、自校の研究を頑張ろうという意欲が高まった。
- ◆紹介された授業参観シートを本校で育成したい資質・能力の内容とも関連付けて作成し、活用していきたいと思う。
- ◆西城中学校の実践等、実践例を踏まえた説明が大変分かりやすかった。自校での研究を推進する際の悩みが解決できそうだと思った。実践交流は、小中連携の場ともなり、小学校の研究推進についてもより理解を深めることができた。
- ◆ICT の様々な活用法について知ることができたので、ICT 機器の活用についての研修を行い、実際に様々なコンテンツを使ってみる時間を設定したい。
- ◆小中一貫したカリキュラム・マネジメントを再度見直したい。1 学期の取組について振り返り、カリキュラムマップの加筆・修正を行って、次の取組に生かしたい。
- ◆小中連携の中で、キャリア教育を中心としたカリキュラム・マネジメント連携も充実させていきたい。